

# ■ ジンリョウユリ

*Lilium japonicum* var. *abeanum*

(平成19年9月7日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類  
環境省における指定状況：絶滅危惧ⅠB類

## 種の概略

### 1) 特徴

蛇紋岩地の山地に生える多年草。茎は細く径3mm程度、高さ50-100cm。葉はまばらに互生し、長さ10cm内外、細長い披針形で短い葉柄で茎に付き、葉縁は白くまどることが多い。葉の先端部が一方へ湾曲するものもある。花は5月下旬から6月上旬にかけて茎頂に1-3個が横向きに咲き、芳香を放つ。花弁は6枚、漏斗状で長さ約7cm淡桃色ないし淡紅色、時に濃紅色の個体もある。11月に長さ約4cmの果実ができ、中に多数の種子を生じる。鱗茎は卵球状でやや扁形、白色の鱗片が重なっている。

### 2) 生育環境

低山帯の蛇紋岩地、アカマツ疎林下などに生育している。

### 3) 繁殖生態

種子によって繁殖する。鱗片による繁殖も可。

### 4) 分布

日本の特産種で、環境庁のRDBでは静岡県に記録があるとされているが、詳細は不明である。

本県の神山町(旧神領村)が基準産地であり、神山町以外の蛇紋岩地にも生育している。

## 生育地と生育状況

県内では神山町、上勝町、那賀町(旧上那賀町、旧木沢村)の蛇紋岩地で生育を確認している。

神山町：神山町の旧神領村が基準産地であるが、花色がピンクで香り高く、花期に現場に訪れた人は、数十本単位で花を持ち帰り、また、栽培のため盗掘が絶えず、かつてたくさん生育していた基準産地には見あたらなくなっている。

上勝町：旭の山地に、かつてかなりの個体が生育していたが、現在は採取・盗掘などにより個体数が減少している。

旧上那賀町：東尾では民間の熱心なジンリョウユリ保

護グループが保護活動(鳥獣防止ネットなどを設置)しており、その結果、県内では最も多い個体数が維持されている。

旧木沢村：出羽においても保護している人がいるが、特にネットなどを設置せず、自然状態のままで保全を呼びかけている。東尾より個体数は少ない。

## 絶滅要因

### 1) 人的被害

生け花用としての商取引があり、葉の色と香りの良さから、採取・盗掘する者が多い。そのため個体数は激減している。花の時期に採取すると、以後、光合成が不十分となり、養分蓄積が出来ず、翌年出る個体は貧弱になる。これを繰り返すうちに消滅してしまう。

### 2) 野生草食鳥獣

ユリの根はイノシシが、蕾や花・茎は鳥獣(ヤマドリ・草食獣)が食害する。春、新芽が出る頃から鳥獣が頻繁に訪れ多大な食害を被っている。

### 3) 生育地の環境

蛇紋岩地という特殊な土壌環境を好むため限定的な分布をしている。長期的には生育地の土層部の林冠が繁茂



ジンリョウユリ

しすぎ、太陽光が遮られるとジンリョウユリの生育状況が悪化し、個体数が減少する。

## 保全対策

### 1) 人的被害

ジンリョウユリの採取・盗掘禁止の標識を立てても、効果が期待出来ない。生育地に巡視員を増やし採取防止の指導とモラルの高揚を訴え、保全をお願いすることが人的被害防止対策と考えられる。

### 2) 野生草食鳥獣

夜行性や昼行性の鳥獣類には、生育地周辺に進入防止ネットを張り巡らすのが良いと考えられる。獣類に対しては周囲のネットだけで進入を防止できるが、鳥類は上部からネット内に進入するので、周囲と上部を囲うネットが必要である。しかし、上部にネットをかけると、枝や葉がネット上に溜まるので、これらを除去する手間がかかることとなり、やっかいである。最も手っ取り早い

のは、これらの鳥獣を駆除することである。

### 3) 生育地の環境

ジンリョウユリの生育には、蛇紋岩地とある程度受光量が必要である。そのため中長期的に管理するためには、上層の樹木の林冠の取り払いや、間伐をするなどの対策が必要である。

### 4) 結果と今後の予想

イノシシ、ニホンジカ、ウサギなどの獣類には高圧電線や進入防止ネット（柵）を生育地の周囲にはりめぐらし、ヤマドリなどの鳥類に対しては、上部にもネットを付けるなどの対策を講じることにより、現在のところ、東尾のジンリョウユリはたくさん生育しているが、これらの対策が採られない場合には、ジンリョウユリは食害により次第に絶滅していくと考えられる。鳥獣の被害対策として効果的な方法は、鳥獣類の個体数を減すことである。

(森本康滋)



ジンリョウユリ群生地